

## 分厚い氷 飛行機も着陸

年 組 番 名前

諏訪湖では冬季に、御神渡りが見られてきました。信濃毎日新聞のデータベースで調べると、大正時代には、氷の上にさまざまな物が乗ったようです。当時の様子について、記事を読み取りましょう。

① 次の(ア)～(エ)の漢字には読み仮名を、カタカナには、漢字を書きましよう。

( ) り (イ) ヒロウ

(ア) 御神渡 ( )

(ウ) カッサイ (エ) テイサツ

( ) ( )

② 八剣神社の「湖上御渡注進録」には、大正時代の御神渡りについて、どんな記録が記されていますか。

③ 1917(大正6)年2月には、陸軍航空隊の複葉機2機が結氷していた諏訪湖に降り立ちました。これは、飛行機に関係のある出来事から、14年しかたっていない。この出来事は、何ですか。

④ 1923(大正12)年には、陸軍の自動車隊も氷上耐重試験に訪れました。けん引車1台で、三八式十<sup>キ</sup>加農砲2門を氷上で引いたようです。氷上での総重量は、何トンになりますか。

⑤ 記事には、大正時代の信濃毎日新聞の写真が載っています。信濃毎日新聞のデータベースで調べると、明治以降の出来事がどう伝えられたか分かります。あなたは、信濃毎日新聞のデータベースで、何を調べたいですか。

# 分厚い氷 飛行機も着陸

30

1873(明治6)年～ 本紙データベースでたどる



毎年この時期、御神渡りが話題になる諏訪湖。2014年1月24日の信濃毎日新聞朝刊の記事によると、御神渡り出現の有無などを記した八剣神社の「湖上御渡注進録」では、大正時代の15年間で御神渡りは13回認定され、3回は氷の厚さが30センチを超えたということです。この頃の紙面を見てみると、飛行機や大砲が諏訪湖の氷の上に乗っていました。

## 御神渡り 大正期は15年で13回



諏訪湖の氷上を飛ぶ飛行機や飛行士と、集まった見物人＝1917年2月16日信濃毎日新聞朝刊



諏訪湖の氷上を大砲を引きながら走るけん引車＝1923年2月2日信毎朝刊

航空隊の複葉機2機が15日、結氷していた諏訪湖に降り立ちます。ライト兄弟の動力エンジン飛行機による初飛行からまだ14年しかたつていませんでした。さまざまな試験飛行を繰り返す飛行機を一目見ようと、集まった数万ともされる見物人が

「湖上を十重二十重に囲んで機の時も「氷はミシンとも音を立てない程であつて危険は全然ない」と話しています。諏訪湖周辺は「露店がぎっしり出てお祭のような騒ぎ、中でも飛行界の玩具の店は儲け切れない程の当たり」とにぎわいました。この年は陸軍の自動車隊も氷上耐重試験に訪れました。米国内から輸入した重量5トほどのけん引車が砲身の長さ約3・3ト、重量約2・6トのクルップ

社製三八式十セ加農砲を引いて氷上を走り、珍しさに「下浜西一帯は黒山のような人出」となります。紙面は氷の厚さは30センチを超えたと伝えていきます。2月1日にけん引車で2門の大砲などを引きますが、氷は少し沈んでも割れることはなく、「氷の耐重力は木材の九分の一位か」と推測しています。〈月曜日に掲載します〉

# 分厚い氷 飛行機も着陸

## 解答例

年 組 番 名前

諏訪湖では冬季に、御神渡りが見られてきました。信濃毎日新聞のデータベースで調べると、大正時代には、氷の上にさまざまな物が乗ったようです。当時の様子について、記事を読み取りましょう。

① 次の(ア)～(エ)の漢字には読み仮名を、カタカナには、漢字を書きましよう。

( ) おみわた (イ) ヒロウ

(ア) 御神渡 ( ) 披露

(ウ) カッサイ (エ) テイサツ

( ) 喝采 ( ) 偵察

② 八剣神社の「湖上御渡注進録」には、大正時代の御神渡りについて、どんな記録が記されていますか。

【解答】 大正時代の15年間で御神渡りは13回認定され、3回は氷の厚さが30センチを超えた

③ 1917(大正6)年2月には、陸軍航空隊の複葉機2機が結氷していた諏訪湖に降り立ちました。これは、飛行機に関するある出来事から、14年しかたっていない。この出来事は、何ですか。

【解答】 ライト兄弟の動力エンジン飛行機による初飛行

④ 1923(大正12)年には、陸軍の自動車隊も氷上耐重試験に訪れました。けん引車1台で、三八式十センチ加農砲2門を氷上で引いたようです。氷上での総重量は、何トンになりますか。

【解答】 約10・2ト (5トほど + 約5・2ト (約2・6ト×2門))

⑤ 記事には、大正時代の信濃毎日新聞の写真が載っています。信濃毎日新聞のデータベースで調べると、明治以降の出来事がどう伝えられたか分かります。あなたは、信濃毎日新聞のデータベースで、何を調べたいですか。

【解答】 自由記述